

社会変革への途(5)

——社会は如何ようにも変革可能だ——

序 2

ちょっと間が空いているので、この文章の意図ということを改めて書いておきます。

このところもう何十年もですが、市場経済はなくならないとか、革命(社会の根底的変革)は起きないというメッセージがリベラルと言われている学者からも出ています。リベラルというのは、社会を民主主義的に少しでもよくしていこうというところで、リベラルなのだと思いますが、そういうひとたちが、「社会は変わらない」という類いのメッセージを出すことが、特に若いひとたちの政治離れを加速していくことになると思うのですが、ましてそのひとたちがアベ政治を許さないという流れの学者の会とかに参加していると、政治的ニヒリズムのようなことがここまで来ているのかと思わざるを得ません。

で、そんな流れをどうにかしなくてはと、少しでも変える、変えられるというメッセージを出していかななくてはと、この連載を始めました。

変える途を三つ示しています。これは別々の三つの道ではありません。内容的に三つの途ということです。

一つは、民主主義の徹底ということ。これは特にきちんとした情報公開、情報・コミュニケーション保障、情報の隠蔽・歪曲・改ざんをした者、特に公務員は、解雇・公職追放・公民権の停止というきびしい処置をしていくことだと思います。また、自民党右派はかつてから、教育やマスコミの偏向を批判していましたが、わたしはむしろ、今のマスコミの報道、そして教育も偏向しているのだと思います。きちんとした徹底した議論とその自由が与えられたら、そもそも社会は一変するのだと言えます。また、インターネットの自由を維持できれば、大手のSNSの自由も要求しながら、今ミニコミ的なところを民衆自身が支えることによって、自由な意見を発信していける場にもなっていきます。世界は様変わりしていきますー

二つ目は、かつて構造改革的革命論と言われていたことがありました。当時はマヌーバーだと批判されていたのですが、いろんなところから構造改革をしていくなかで、漸進的に社会が変わっていくということです。今、いろんなことが出ています。例えば、ベーシックインカムの議論、地産地消の話、産地直送の協同組合的取り組み、労働運動の協同組合的な動きも出て来ています。わたしは特許制度の廃止の問題が大きな力になると思っています。

三つ目は、こんなにも「社会は変わらない」という意識が広がったのは、過去の「社会変革の運動」の負の遺産が蓄積しているからです。そのことの総括をきちんと成しきらねばなりません。他の国で起きたことだからとか、他のグループのやったことだからと、とらえ返しさえ放棄しています。ひとつの歴史的流れがあり、それをきちんと押さえねばなりません。わたしはとりわけ差別ということをきちんと押さえきれなかったところから来る問題から押さえ直そうとしています。ということで、少しずつ書き進めます。

改めて目次の再掲載です。

目次（仮）・・・書き下ろしなので、あくまで仮です。書き上げた時点で大幅改訂になっていきます。すでに、Ⅲに予定していたところを変更しました。

- (はじめに) (「反障害通信」 81 号)
- 序論—いかにして現体制は維持されているのか (「反障害通信」 83 号)
- I. 瀕死の議会制民主主義—間接民主主義の救命
 - (1) そもそも民主主義とは何か? (「反障害通信」 84 号)
 - (2) 情報・コミュニケーション・アクセス保障と情報隠蔽・歪曲を許さない闘い (「反障害通信」 84 号)
 - (3) 三権分立の確立 (「反障害通信」 86 号)
 - (4) 民意を反映しない選挙制度の改革 (「反障害通信」 86 号)
 - (5) 地方分権、被差別当事者による「拒否権」の確立 (「反障害通信」 86 号)
- II. 間接民主主義から直接民主主義へ
 - (1) インターネット投票の波及と国民投票の拡大 (「反障害通信」 89 号・・・本号)
 - (2) 国会の政策集団化 (「反障害通信」 89 号・・・本号)
- III. さまざまな物象化（意識的とらわれ）からの止揚
 - (はじめに) 六つの物象化とその止揚
 - (1) 国家という物象化とその止揚
 - イ、下からの国家を超えるネットワークの確立／ロ、軍をなくすとirikumi／ハ、国家主義・ナショナリズム批判と国境を越える民衆の連帯
 - (2) 王制という物象化とその止揚
 - (3) 神という物象化とその止揚
 - (4) 私有財産制度という物象化とその止揚
 - (5) 貨幣という物象化とその止揚
 - (6) 労働能力という物象化とその止揚
- IV. 「構造主義革命論」の見直し
 - (1) 地産地消運動と協同組合運動
 - (2) 産地直送運動と民衆の生産と消費のネットワーク
 - (3) 労働組合運動と労働組合による生産管理
- V. 反差別共産主義論の確立
 - (1) 過去の「共産主義運動」の総括
 - (2) 国家の解体のために
 - (3) 反差別共産主義論の確立と反差別運動のネットワークの形成と推進

この連載を始めるにあたって最初に書いたように、目次のⅠからⅤに進んで行くにあたって、現実の枠組みで少しでも民主主義的にどうしていくのかというところから、もっと根底的な社会変革と進んでいくような論攷になっていきます。したがって今回の論攷で書いたことは、次のⅡが実行し得たら、こんな話をする必要もないことを含んでいるのですが、それらのことはつながっていて、どこからどこまでが、道として示し得るかということではありません。「現実的な」せめぎ合いの一つとして提示していきます。一応、ⅠとⅡが民主主義の徹底に関する事、Ⅲはすべてを含んだイデオロギー的せめぎ合い、Ⅳが構造改革的革命論、Ⅴは総括と反差別革命論です。

Ⅱ. 間接民主主義から直接民主主義へ

(1) インターネット投票の波及と「国民投票」の拡大

統一試験の記述式の問題で業者との癒着とかの疑惑もあって、ひと悶着しているときに、安倍首相が、小学生にタブレット端末をひとり一台ずつ配るとかいう話をしていました。また、パソコンメーカーのことを考えているのかもしれませんが、これは実は、これからの選挙、インターネット投票ということを見ると、可能性が広がっていくことです。たぶん、インターネット投票とそこでの選挙運動という処からはじまっていくことです。そこで肝心なことは、情報保障をどうするのか、現在のような情報操作、情報隠蔽、文書破棄・改ざん、ということが常道化していることを、まずきちんと改めていかないととんでもないことになります。情報保障は民主主義の命です。というところで、公文書というところの改ざん・破棄したときに、解雇・公職追放・公民権停止までやっつけていかないとにも始まりません。そもそもインターネットが普及していくとき、それをつかえないひとのこともきちんと考えなくてははいけないし、不正使用とか、IT支配のようなことも考えなくてははいけないのですが、そもそも間接民主主義などもう笑い話になるようなことなのです。一回の国政選挙で80億かかるということですから、タブレット端末、パソコン配布の費用は、先行投資的に言えば、財政的にもプラスになります。

先行投票で「一般投票（今、「国民投票」といわれていること）にかける議案」かどうかを決めて、決めたらいろんな形で議論をアップしていき、最終的に投票にかけるということで、直接民主主義は機能します。

こういう話をすると必ず、差別的な「衆愚政治」という話が出て来ます。ですが、そもそも間接民主主義が機能しないシステムになっているのです。世論調査自体も情報操作されている可能性があるのですが、それでも、民衆の判断は情報がきちんと提出されているとそれなりに機能しています。世論調査で過半数が反対している議案が通ること自体が、国会がおかしくなっている証拠です。この「一般投票」システムは地方自治でも、国政とリンクした拒否権の行使に使えます。現地地域で70%以上のひとが反対している沖縄の基地建設は、地方自治という面からも通すのはおかしいのです。

(2) 国会の政策集団化

さて、それでしばらくは、「一般投票」にかけなくてもすむ、ほとんど全会一致で通る案の立案・議論・議決の国会議員の仕事として残るでしょう。それよりも、政策集団として議論をしていくことで情報提供していく集団として、必要なるかもしれません。それは単に議員ということだけでなく、他の形でも、議案退出ということを確認していくことだと思っています。もう一つ、「国会議員」ということの弊害は、物事をトータルにとらえないで、「国会」というのですから、国益とか国家という概念にとらわれていくことがあります。そもそも、戦争とか核兵器をなくせないのは、また環境汚染とか止められないのは、国家主義にとらわれているからです。また現在のこんなにもおかしうしたアベ政治の根幹は、国家主義にあると言えます。そういう意味でも、これまでの国家という概念にとらわれ続ける間接民主主義的なことは、縮小していくことではないかと考えています。国家主義批判はⅢのイデオロギー的せめぎ合いのところでも出す予定ですが、実は、先行して「共同幻想」批判としてだしていることです。

わたしは、そもそもIT関係は弱いので、もっとそちらの方面の情報をもっているひとから良い案がでてくることを期待しています。

今回はⅢですが、これは、前述しているように、借り物的に「共同幻想」批判としてすでに出しています。（「通信」85号）「六つの共同幻想とそこからの自立」

[https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-](https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_b20671f6cef74d43bee8e99fec920608.pdf)

[62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_b20671f6cef74d43bee8e99fec920608.pdf](https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_b20671f6cef74d43bee8e99fec920608.pdf)

それをわたしが軸にしている物象化批判として展開していくことなのですが、先を急ぐので、Ⅳを先に書きます。